

MARCH 21 国際人種差別撤廃デー 合同祈禱集会

1960年3月21日、南アフリカで人種隔離政策に抗議し、義務付けられていた身分証を持たずに行進をした人びとが、警官から発砲され殺害されました。その発砲によって殺害されたのは69人、負傷者はその3倍。この出来事によって友人、同僚、家族を失った人びとの悲嘆の日が、3.21.です。南アフリカでおこった人種主義への抗いを制圧する暴力は、今なお続く、マイノリティへの暴力とつながっています。当時、南アフリカでは、18歳以上の男性黒人に指紋や雇用主が記載された身分証を常時携帯することが義務付けられました。女性たちには当初この身分証すら発行されていませんでした。この日から63年、日本に住む外国人に対する排外的で冷酷な政策が続いています。憎悪、敵意によるヘイトスピーチは止まず、精神的、肉体的虐待は外国人をターゲットに続けられ、ヘイトクライムが起こっています。国際人種差別撤廃デーは、南アフリカでの人種隔離政策への抗議行動とそれを制圧しようとする権力との闘いを思い起こし、わたしたちの身近でも起こっている人種差別に抗い、わたしたちが生活している場で、NO RACISMの声をあげ、実践へと促されてゆく祈りと決意の日にしたいと思います。

3.21.をNO RACISMの祈りの日に

教会、地区、グループで、この日を覚える集会・プログラムをもちませんか？

マイノリティ宣教センターは、3.21.をそれぞれのキリスト教団体での人種差別撤廃を求める特別な祈りの日とすることを提案します。



info@cmim.jp

WHAT IS 人種主義 RACISM



レイシズム Racism

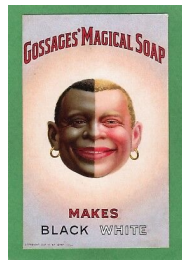
「人種化する権力」

Racismは「人種主義」と訳されたり、「人種差別」と言われる複数の意味を持つ言葉です。人種を切り口に、不当な扱い、無視、危害、その動力がレイシズムです。民族、出自、性、身体的特性がその人を運命的に決定づけてはならないのです。しかし、いずれの特性が他方よりも優位であるという「神話」が創成され、それに基づいて社会的、政治的、経済的システムを維持するため、差別を生み出す力として機能するのがレイシズムです。

レイシズムは、抵抗行動により発見されます。常に意識化されていなければ、誰もがレイシストとして振る舞う危険性があります。

キリスト教布教とレイシズム

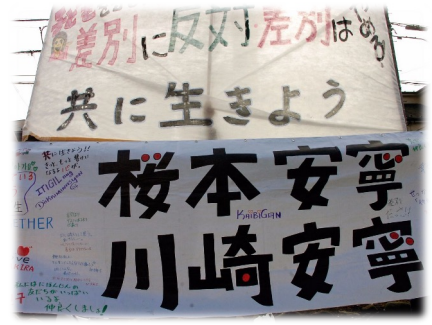
『「神を知らない人びと」(罪人)を覚醒させること、キリスト教を知らない人びとは「衛生観」が低く、病気にかかりやすい状況から「救わなければならぬ」という



「(白人の)責任感」は絡まり合い、キリスト教と石鹼を絶対的正義として植民地支配を正当化してきました。キリスト教化、衛生のための「洗い」を、「当然」と感じるキリスト教徒は、自分の考え方、生活習慣、人生観の方が「優れている」という規範を維持しようとしてはいないでしょうか。コロナの時、感染防止を盾にレイシズムは強まり、ヘイトスピーチ、ヘイトクライムが次々に起こっていることも、キリスト教のよさを強要する精神性という視点から捉え返す必要があります。

年	件数
2017	426
2018	287
2019	300
2020	213
2021	289

2017年～2021年 ヘイトデモ・街宣 件数



数字の問題ではない ヘイトスピーチ・ヘイトクライム 心刺され傷つけられるその記憶は消えない 朝鮮植民地支配でのレイシズムの延長線上に 新たな差別扇動が起こりエスカレートしている

- 2009年12月4日(金) 京都朝鮮学校を、在特会などのヘイト集団が襲撃。170人の児童が避難。46分にわたって街宣行動及び翌年2月、3月にも連続。
- 2014年7月6日(日) 日本キリスト教会館、女たちの戦争と平和資料館(WAM,AVACO)へのヘイトデモ。
- 2015年11月8日(日) 川崎市桜本への第一回ヘイトデモ、カウンターにより阻止。
- 2016年1月31日(日) 川崎市桜本への第二回ヘイトデモ、市民によるシットインにより阻止。
- 2016年6月5日川崎市中原区平和公園からのヘイトデモをカウンター700人以上によって阻止。
- 2017年7月16日(日) 川崎市中原区でヘイトデモが行われる。カウンター1,000人以上。
- 2020年1月川崎市ふれあい館へ在日コリアンへ殺害を呼びかける年賀状が届く。
- 2020年1月川崎市ふれあい館爆破予告が市に届く。
- 2021年3月18日(水) 川崎市ふれあい館館長宛の脅迫状が届く。
- 2021年8月30日(月) 宇治市ウトロ地区への放火。
- 2022年2月ナイフの写真付きで「桜本で抗争したい」とのTwitter投稿。

(主に「近年のヘイトスピーチ関連年表」『福音と世界』2022年11月号 (CMIM責任編集号) 新教出版社pp.40-41を参考に掲載)

NO RACISM NO HATE

2016年「ヘイトスピーチ解消法」が成立してもなお続くヘイトスピーチ。エスカレートしヘイトクライムへと突き進んでいる現実に目を背けず、ねばりよく座り、立ち続け、方向転換へと促されていこう。この経緯と現実を伝え、ありとあらゆる方法で反差別に取り組んでいこう。これがマイノリティ宣教センターからの呼びかけです。

**3.21.を、キリスト教会、団体、グループ、個人で
「NO RACISMの日」
にしましょう。**

MARCH
2021

日本に住む外国人への差別的政策

2022年6月時点の発表によると日本には296万人の外国人が住んでいます。日本国籍を取得する外国にルーツを持つ人が年間1万人～1万五千人ですので、日本に住む外国人及び外国にルーツを持つ人の数は400万人をはるかに超えています。

日本独自の難民認定基準による差別

世界的には難民、あるいは国内外への避難を余儀なくされている人が1億人以上です。日本へ庇護を求める外国人のうち、1%未満しか「難民」として認定されてきませんでした。2019年までは日本で難民申請をする外国人の数はおよそ1万人（2017年は2万人近くいました）。2020年からの3年間はコロナの影響によって入国が困難な状況で、申請者は極端に少なくなり、それまでの三分の一ほどの申請に留まりました。他国では難民申請者のおおよそ2～4割が難民として認められ保護を受けることができます。難民を受け入れるための制度やシステムは、1951年難民条約が発効されてのち、次々と提示されてきましたが、日本はこれらの「受け入れるための準備」を怠り、独自の「認定基準」に固執し続けているため、多くの帰国困難者を避難先で再度抑圧するという人権侵害性のある政策を続けています。裁判所の関与など第三者の目による認定作業がありません。入管の判断だけで無期限の収容が行われる状況を下支えする差別意識を変えなければなりません。

入管法改悪案は危ない

難民申請中で在留期限が切れている人は、強制的に帰国させられない「送還停止」の約束が、2021年春に提出された「入管法改定案」によって削除されそうになりました。そうすると、いのちの危険を訴えている人々が、日本の定めた独自基準によって難民として認められない場合、その人を弾圧と拷問、そして殺害の危険がある場所へ送り返すことが起こってしまいます。市民の声で、前回の入管法改悪案を押しとどめることができましたが、なお、外国人に対する日本の政策は差別的なものであることには変わりはありません。

入管施設内での暴力

「今、帰ることができない」と伝え続け、体調不良を訴えていた名古屋入管施設収監中にラスナヤケ・リヤナゲ・ウイシュマ・サンダマリさん（スリランカ出身）は、2021年3月6日、34歳で亡くなりました。2017年夏に来日し、日本語教師を夢見て学習をしていましたが、同居人から暴力を振るわれ、交番に申し出た2020年8月に名古屋入管施設へ収監されることとなりました。保護を求めていた彼女は、収監中に著しく体調を壊し受診を求めました。仮放免を求めている理由書にも点滴の必要が記されていましたが、それらは受け入れられることなく、彼女は亡くなりました。

無期限で外国人を収容する入管施設での暴力、人権侵害が指摘され、国連自由権規約委員会から日本は勧告を受けています。彼女をはじめ、日本の外国人に対する差別的政策によって殺されてしまった人びとを記憶し続け、一刻も早く改善されるよう声をあげましょう。



日本における難民庇護状況

年	申請者数	定住難民	条約難民	その他の庇護
2017	19,629	29	20(1)	45
2018	10,493	22	42(4)	40
2019	10,375	20	44(1)	37
2020	3,936	0	47(1)	44
2021	2,413	0	74(1)	580

条約難民（ ）数は、難民申請で不認定後に異議申し立てをしたのちに難民認定された方の数。

2021年は、ミャンマー人への特別措置による32人の認定、その他の庇護を含む。

MARCH 2021



マイノリティ宣教センターでは マイクロアグレッションの学びをはじめました

- マイクロアグレッションは、あからさまな差別、意識的な加害でなくとも、意図せず無意識のうちに、相手を著しく傷つけ、苦しめる差別です。加害者側は、決して差別的な意味はないと思い込んでいても、マイノリティに対する差別意識が根付いているために生じるものです。
- アフリカ系アメリカ人たちに対して浴びせられている言動について「捉えがたく、当惑させ、時に自動的で、非言語的にやりとりさせる『こきおろし』」をマイクロアグレッションという用語で表されたのが始まりと考えられています。（1970年ピアースによる）。
- 「人種」、セクシュアリティを理由に、言葉で、あるいは態度で、ムードで相手を過小評価する「捉えにくく、しかし痛烈な攻撃」が、マイクロアグレッションです。受け手は抵抗する活力を抜き取られ、記憶にいつまでも残りその後の生活をも左右する甚大な被害を受けます。
- 日常生活の中で、やりとりされている言葉、態度の中に、隠されているメッセージが相手を傷つけることになっていないかを振り返ることは決して恥ずかしいことではありません。
- キリスト教の活動の中にも、見えざる、意図せぬ差別が教理や習慣の名のもとで続けられていないかどうかを常に点検するための話し合いが必要です。話し合いの方法そのものが、無意識に「普通のこと」と考えているあり方で行われていないのかも問うていきましょう。

WHAT IS 入管問題 外国人差別

はじめよう NO Racism 祈り 3/21

国際人種差別撤廃デー3月21日
日本にあるレイシズムに対抗する
具体的アクションを起こしましょう

▶2023年2月22日(水)から、4月6日(金) レント期間中、マイノリティ宣教センターは国際人種差別撤廃デーに向けたキャンペーンを行います。

▶Twitter連続投稿をCheckください。
(<https://twitter.com/CMIM15>)



こちらのQRコードから、マイノリティ宣教センターのTwitterを見ることができます。

▶今年の国際人種差別撤廃デーに向けた各地の取り組みをマイノリティ宣教センターへ紹介ください。

▶教会で祈りの時を持ちました！グループで集会をしました！個人でこんなアクションをしています！そんな情報をシェアして励ましあいます。info@cmim.jp まで投稿してください。

マイノリティ宣教センター主催

3.21.オンライン集会

「わたしたちだけのときは」から

～国際人種差別撤廃デー合同祈祷集会～

日時 2023年3月21日(火)

午後7時～8時半

プログラム(予定)

- ・国際人種差別撤廃デーについてのお話
- ・朗読「わたしたちだけのときは」
(デビッド・アレキサンダー・ロバートソン文
ジェリー・フレット絵 横山和江 訳)
- ・各地からの声
- ・祈りの時間

完全オンライン集会です。
お申し込みは前日までに。



3.21.を覚えて
こんな取り組みはいかがでしょうか

『からふるな仲間たち』1～4 教会で読んでみませんか？

外国にルーツを持つ人々のストーリーをマンガ化。1冊に4人の物語が分かりやすく記されています。さらに、考えてみよう！と、その物語から考えてみたいことがやさしい言葉で添えられています。

1冊100円 ぜひこの機会にお求めください。

ご注文はマイノリティ宣教センターまで。
info@cmim.jp



「祈りのときに」(CMIM編)を用いて集会で祈りませんか？
以下は収録されている祈りの言葉の一つです。

祈り (3.21.を覚えて 女たちの祈り)

神よ

わたしたちは今日、1960年3月21日に南アフリカで起こった人種主義に抵抗する人びとが虐殺されたことを思い起こしています。人種主義を唱える社会の中で、さらに人種主義を乗り越えようとする運動の中でも、女性たちの権利が著しく無視され、貶められていたことに、わたしたちは気づきにくくされています。どうか、わたしたちがこれまで「習慣」だと思ってきたこと、「伝統」とみなしてきたことの中に、根深い人権侵害があることに気づかせてください。

声なき声とされてきた女性たち、性差別を受ける人びとが、しなやかにつながりあい、結び目をつくりながら、知恵をわかちあひながら生きていける道を見出すことができるように助けてください。イエスの名で祈ります。アーメン



共生の天幕を広げよう

マイノリティ宣教センター

マイノリティ宣教センターは2017年にキリスト教の諸教派、団体が、日本における差別、ヘイトスピーチを止め、共生に向けた取り組みをするために決意を持って設立された団体です。



MARCH
3
21

<https://onl.bz/my5nkNB>